

「末松成彬先生の古稀をお祝いする会」を開催

GWの真っ只中の、5月3日に、熊本市内の和食料理「瑞恵（みずえ）＝宇土高校OBのお店です」にて、昭和56年度の3年4組の卒業生有志19名が卒業当時の担任だった「末松成彬先生ご夫妻」をお招きしての「古稀をお祝いする会」を開催しました。古稀はご存知の方が多いと思いますが唐の詩人・杜甫の詠んだ「人生七十年古来稀なり」から出ています。当日はあいにくの雨にはなりませんが、昼間から懐かしい顔が集い先生のお蔭で美味しい料理とお酒を堪能させていただきました。

末松先生は、今年に入られて交通事故に遭われたとの事で大変心配しておりましたが、相変わらずお綺麗で若々しい奥様と、70歳には見えない凛々しいお姿で登場されました。先生は、宇土高校時代は、化学の教鞭をとられ、クラブ活動では長く熊本の高校ボクシング界にも貢献されて熊本国体の折には理事長も勤められました。末松先生とこの56年卒業の3年4組は、先生が退職された2000年にも、我々の卒業20年目を記念して当時も「卒業を祝う会」を25名集まり開催しました。それ以来の盛大な会を先生がご壮健なお蔭で11年ぶりに開催することが出来たことは本当によかったとおもいます。なお、末松先生ご夫妻は現在、福岡の久留米市内にお住まいです。

「古稀をお祝いする会」は、13時過ぎに末松先生にご挨拶を頂き始まりました。石塚君の乾杯のあ

と、有志からの記念品として黒と紫のリバーシブル「マフラー」をプレゼント。奥様にもお花を差し上げました。途中、記念撮影の時間はとったものの、食事をしながらの時間はあっという間に過ぎました。

最後に「くまもん体操」というのを、相川さん（森）の指導のもと楽しく踊り、閉会の挨拶を私宮本がさせていただきます、小佐井君の一本締めでお開きとなりました。幹事の相川尚代さん、高浜（上田）須美子さん楽しい時間をセティングして頂きまた準備も含めて本当にご苦労様でした。

なお、出席者は、石塚雅浩、浦坂幸生、岡崎正弘（長崎より）、木下裕郎、小佐井達也（福岡より）、小山恵一、園田裕充、田中浩史（千葉より）、林田正憲、平井光則、平野俊久、西山健二、宮本和幸（東京より）、相川尚代、今村しおり、緒方（竹馬）里美、川田（稲守）由美子、高浜（上田）須美子、草野依子（敬称略）そして末松先生ご夫妻の21名で大変盛り上がりしました。

（昭和56年度 宮本和幸）



サンデル教授の『ハーバード白熱教室』に魅せられて！

NHKで放送されたこの番組をご覧になった方もいらっしゃると思います。サンデル教授が『正義』とは何か、について講義を行うこの番組は、我々日本人にとっては感銘を受ける、凄い！と感じさせられる講義ですが、実はハーバードの講義としてはいつも通りの講義なのです。

私は2007年7月から1年間、ハーバード公衆衛生大学院に留学しました。一般的に“医者留学”と言えば、研究室に所属して研究を行うのが一般的ですが、私はまだ日本人医師の中では数えるほどしかない公衆衛生修士号を取るための留学でした。よって大学院に入学する必要があり、試験に合格しないと留学できません。国家試験以来の受験勉強でしたので下準備は非常に辛いものでした。

ハーバードの受験には、TOEFLという語学の試験、GREという試験と推薦状3通が必要です。若いころには海外には行ったことはあるのですが、ホーム・ステイなどの経験のない私にとっては、TOEFLをパスするのが最大の難関でした。まずはTOEFLとはどういうものかと確かめるために、参考書を買って勉強して臨んだのですが散々たる結果。これでは絶対に合格できないと思い、短期間で効率的に勉強するにはTOEFL対策の学校に入学するのが最短の方法と考え、試験対策の学校のコースを受講することとしました。

仕事が終わり次第、語学学校に通い、家に帰っても夜遅くまで受験勉強という生活が続き、仕事の合間にも試験対策の勉強を半年間続け、何とか受験最低レベルの点数に到達しました。必要書類を作成し、推薦状も3通用意して2005年の11月に出席、翌年の2月にハーバードから合格通知が来たことは、今でもよく覚えています。

ここで問題なのが、アメリカの学校が9月始まりで、日本が4月始まり、ということです。合格通知を2月に受け取って、3月に退職して9月まで大学院への準備ということは現実的ではありませんでしたので、私は1年間入学を延期して2007年7月のサマーコースからの入学としました。日本では合格したら即入学、のイメージですが、アメリカではやや異なるようです。それは大学・大学院に通学するというのは多大な学費が必要なこと。多くの学生が借金をして入学しています。アメリカの学生はまずは入学を確定させ、それから奨学金への応募をするようで、お金の工面ができるまで大学側が待ってくれるのは、非常にありがたいことです。日本では大学全入時代ですが、アメリカのように何とかお金の都合をつけてでも勉強したいという学生の姿勢には、本当に頭が上がりません。このような社会的な背景が、アメリカの強さを醸し出している一面かもしれません。

これから何回かに分けて、私がハーバードで経験したことを皆さんにお伝えしていきたいと思います。

（ハーバード留学体験記を<http://ameblo.jp/asakusa-clinic/>で公開しております。興味がある方は、ぜひご覧下さい。）

内山 伸（平5年卒）



プロフィール

内山 伸（うちやま のぼる）
宇城市松橋町生まれ。くるみ幼稚園、松橋小学校、松橋中学校、宇土高校、佐賀医科大学医学部を卒業後、聖路加国際病院に勤務。2008年ハーバード大学公衆衛生大学院修了。現在は浅草クリニックに勤務。各種の認定専門医の指定を受け活躍中。

「3月11日の東日本大震災」 に想うこと

私は、その瞬間、「関東大震災だ!」と思い覚悟しました。この川崎に来て7年の年月が経とうとしていました。いきなり、震度5の強い長い大地震を体験し恐怖を感じました。何もなかった様に、福岡の友人から電話がありました。私は深い息使いで、友人も驚いてました。今までにない地震の為、貴重品をまとめ、そしたら、やはり2回目の大揺れがきました。マンションの扉を恐くて開けたら、お隣の方もマンションの方々が一つになりました。空を見上げれば、真っ黒な恐ろしい雲がたちこめていました。近所の皆さんは、「こんな大地震は初めて!」と言われてました。その日の夕方、主人も早く帰ってきて、テレビは全チャンネル地震放映一色でした。「まさか!東北が何故?」と連日のテレビ映像を見るたび、心が重く強く押しつぶされ、「夢?!」と思いましたが、夢ではなかったのです。すぐさま、東北のそれも一番被害が多かった仙台の友人に電話連絡しましたが、全く繋がりませんでした。夢からすぐ現実へととなりました。

1週間後、やっとの思いでその友人に連絡が取れた頃には、サバイバルの生活を友人はしており、電気、ガス、水道 全て無し。私も初めての経験です。友人がこんな目に遭ってると思うだけで、何も出来ない自分が本当に情けなく悲しくなりました。いざ、電話が繋がったら私の方が大泣きで、友人は頼もしく強かったです。今回、本当に大震災により被害を受けた皆様方に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復旧を心よりお祈り致します。大震災の影響による計画停電の折、GWを利用して

主人と熊本へ帰省しました。私は地震以来、“地震酔い”等もあり、精神的にかなりまいっていました。熊本に着いた日は真夏日和でした。懐かしい田園風景の中で、レンゲ畑とウグイスの声にずっと癒されました。高校時代の友人と再会し宇土市内で食事をしました。皆の温かい気持ちに触れられて、本当に私は恵まれてると痛感しました。

今年は、昭和57年卒が大同窓会の幹事の年でもあります。皆様と呼びかけて、今回の東日本大震災の力に少しでもなりたいと思っています。何かをしたい気持ちで、微力ですが人が集まれば大きくなります。今年9月3日にホテル日航にて大同窓会が開催されますので、皆さまのご参加をお待ちしております。宇土の地藏祭りにも募金活動をできればと、今、提言もしております。

GWに帰省した際に、宇土市はあの学生時代と変わらず本当にのどかでしたが、私達、昭和57年卒業生は頑張ろうと思っておりますので、故郷があることに、今回程、感謝した事はありませんでした。福島原発に関連の方々本当に感謝し敬意を表します。日本が一日も早く元気になること、それと、宇土高校卒は、皆繋がると信じております。改めて、故郷・熊本がこんなに素晴らしいとは思いませんでした。まさか、ウグイスとレンゲ畑に癒されるとは・・・。それと、学友に感謝、感謝の気持ちで一杯です。3月11日は、宇土高校の絆を新たに知った日でもありました。宇土高校に感謝、感謝です。

木村 香苗 (昭57年卒)

おいでませ!山口へ

こんにちは。昭和55年卒の小野です。昨年まで家族と東京に住んでいまして、東京鶴城会には何度か参加していました。この度、山口県山陽小野田市に引越しました。

ここは自然豊かで〈きららビーチ焼野〉から見る夕日(写真)は最高です! 野菜や花を育てながらスローライフを楽しんでいます。今年は山口国体もあります。「おいでませ!山口へ」。

小野 徳子(昭55年卒)



熊本みやげは自慢バイ!

同窓会に卒業以来一度も参加したことのない、横浜在住肥後もっこす、福永と申します。

熊本に帰る機会はめっきり減ってしまったのですが、歳をとるとともに、おみやげに気を使うことが多くなりました。しかしながら財布の中身は増えている訳ではなく、毎回悩みのタネです。

特に、熊本から横浜、東京へのおみやげは、知り合いに誇らしく郷土を自慢するこころ一番の勝負どころです。個人的に一押しは、小袖もち、辛子レンコン、いきなり団子ですが、どれも日持ちしないのが難点ですが、しかも、たくさん買うとかなりの出費です。

今回、熊本からのおみやげとして、日持ちOK、安くて軽くて、実に熊本らしい、それでいて、あまり知られていないコアなおみやげを見つけ嬉しかったので、ご報告させていただきます。



1 **アベックラーメン** 五木食品(株) 熊本市城南町
いや〜たぶん30年ぶりに食べました。正直あまりいい記憶が残っていませんでしたが、食べてびっくり。すっきりこってりおいしい! このつこみどころ満載の商品名も話しのネタになって楽しいのではないのでしょうか。「アベック」って死語ですよ〜。熊本空港の鶴屋で一袋168円二食入りです。

2 **フタバのふりかけ** (株)フタバ 熊本市島崎
これは懐かしい味。在りし日の実家食卓を思い出しました。知り合いにも大好評。同じく熊本空港の鶴屋で315円。種類がいくつもあって、唐辛子ふりかけ、ゆずしょうぶふりかけなんてのもありました。

3 **お城納豆** (株)丸美屋 玉名郡
熊本空港内では販売しておらず、今回残念ながら購入断念。へえ、これもご当地食品だったんだ、って感じですよ。

あと、今回色々調べる過程で、ついネットで見つけて、懐かしかったのが、竹下製菓「ブラックモンブラン」。アイスなのでおみやげにはできず、かつ、佐賀県製造なので本文の主旨とは合いませんが、私が小学生のときに彗星のように現われ、こどもたちのハートを鷲づかみにしたアイスでした。懐かしすぎるバイ。

話しが脱線しましたが、おみやげは定番ものだけでなく、ご当地原産のちょっとした食品なども意外と面白いことが分かりました。全国販売だと思い込んで忘れていたものが、熊本限定だったりします。ぜひ、色々発掘してみてください。

福永 貴之 (昭58年卒)

昨年の東京鶴城会の感想

今年の東京鶴城会の中止は残念です。昨年は同級生の宇土市長の参加で、久しぶりの再会に昔を懐かしみ、宇土市の事も色々聞いて高校時代が鮮明に蘇りました。授業を教わった先生にもお会いでき、変わりのないお褒めに感激しました。それに、今でも忘れられない吉澤先生の息子さんにも会って、近況を聞いたことも熊本を思い出して、とても楽しいひと時でした。会の報告で、宇土高校が中高一貫校になったと聞き、時代の流れを改めて感じました。

私は東京での暮らしが長く、なかなか熊本に帰ることも少なくなってきていますが、今でも高校の友達との連絡は便りやメールで続いています。宇土高校の思い出は、友を通して一生忘れられない楽しい思い出です。

高校時代は、朝早くから夕方遅くまで課外授業があったり、勉強合宿があったり熱心な先生方のおかげで、クラス全員で受験を乗り切りました。また、クラブ活動に明け暮れた毎日、お腹を空かせて学校近くの吉野屋さんやとん平によく通いました。今では、高校近辺も様変わりしていることでしょう。仲の良かった友人はほとんど熊本で生活しています。たまに子供とディスニーランドに来たついでに連絡をくれます。今年の震災の時は、「困ったことはないか」とメールをくれました。

何年たっても高校時代の友人は貴重な存在です。私の家族は転勤族なので東京に長くは居られないかもしれませんが、機会があれば、東京鶴城会に今後も参加できればと思っています。

私の同級生は中・高校生や大学生、社会人のお子さんをお持ちの方が多いと思います。忙しい時間の中でも少しの間、自分の高校時代を思い出し、懐かしむ時間を作ってもいいかもしれませんよ。まだ参加されていない方には是非お会いしたいです。

まとまりのない話で申し訳ありません。私にとって高校時代は本当にいい思い出でした。

梶原 和美 (昭和58年卒)



国宝城めぐりレポート

40年卒の境屋です。特にお城が好きと言うわけではないのですが、NHKの朝ドラ「おひさま」を見ていたら、長野の松本城を見学している場面で、その天守の姿に惹かれて行ってきました。松本城は現存する日本最古の五重天守との事で、国宝と知りその姿は、もし宇土城（鶴城）が現存していたら、こんな景観であったのではと思わせる「黒と白」のコントラストが鶴のような、風格のあるお城でした。

築城400年余の歴史を感じる天守内に入ると、狭い階段（梯子みだい）を昇って最上階（天守六階）まで行くのですが、当日は日曜日のため見学者が多く、階段の昇降順番待ちで最上階まで50分以上も掛りました。おかげで内部をじっくり見ることが出来たのですが、多くの柱の表面がうろこ状に削られていて、これはカンナでなくヨウナで削ったあとの事でした。再建されたお城と違い、戦国時代の建築様式と工法が実際にこの目で見られるのは感動でした。ところで、国宝の城は全国で4箇所しか無いことも知りました。姫路城、犬山城、彦根城、それと今回訪問した松本城の4箇所です。残念ながら故郷の熊本城は国宝ではなく、石垣や敷地が特別史跡で建造物の宇土櫓が国指定文化財となっているそうです。熊本城の天守は、ご存知のとおり西南の役で焼失していますから、復興天守閣ですね。

チョット横道にそれましたが、松本城の天守からは、北アルプスの山々が望めてとても良い眺めでした。お城に興味のある方にはお勧めのお城です。近くには旨い手打ち蕎麦屋さんが多くあるのも嬉しいです。実は松本城見学のあとに国宝彦根城（滋賀県）にも行ってきたのですが、次の『東京鶴城会便り』に空きがありましたら紹介します。

境屋 由夫(昭40年卒)



私の釣りバカ日記！

- ワラサ（ブリ）がいっぱい釣れたとです -

2010年12月6日、ワラサが釣れているとの僚船の情報で、Y社長と船出することにしました。10時に出船する予定でしたが、私が船に乗る時に、迂闊にもバランスを崩して海に落ちてしまいました。すぐさま陸に上がりましたが、寒くて震えてしまいました。身体に救命胴衣を付け、肩にクーラーを掛け、両手に竿を持っていましたが、落ちた原因は分かりません。幸運にも、クルーザーを係船している前がY社長の自宅だったため、温かい風呂に入れて頂き、ついでに服も借りました。

同日12時に漁場の吉野瀬に到着しました。乗り合い船が40隻位寄り合っていました。そこから50M位離れた場所で水深40M漁探に反応があり、錨を入れました。ハリスは、二人とも5号×6M用意していました。釣りを始めて2時間位は、全く当たりはありませんでした。「今日はボウズかな」と思っていたその時、凄い当たりがあり、ワラサと直感しました。しかし、慌ててしまって、切られてしまいました。Y社長からは、「大物が当たったら、女性の肌と同じように、優しく扱わないとダメだ！」と助言をもらいました。この助言は何度も聞いていましたが、中々生かせません。暫くして、Y社長にも当たりがあり、10分位竿を立てて対応しましたが、切られてしまいました。「いつもより、魚が大きい。5-6キロはあるぞ！」とY社長は言いました。二人とも、ハリス7号×6Mを急いで作り直しました。その後、入れ食い状態になり、テンヤワンヤの状態でした。

魚の群れが去り、気が付いたら辺りはすっかり暗くなっていました。ナビと外の景色を確認しながら、帰路つきました。もの凄いあのワラサの引きの感覚が今も残っています。

井上 二郎(昭36年卒)

迷わんではいよ

「父ちゃんに教えたいだけ、良かった。迷わんで成仏さすたい」と臨終の枕元で、母は静かに呟かした。差し込む夜明けの光の中に、ほこりがゆらゆら舞いあがる。あの光の帯に、父の魂は包まれて行くのだらうか、と私は考えよった。

父は肺癌の宣告を受けて3カ月で死なした。72歳だった。レントゲンの検査は頑として受けらさなかった。結核で診断されると、恐れとらした。後で知った。昔は結核に罹ったら、その家族も後ろ指ば指された、というけん、よほど気にしとらしたつだらう。「結局手遅れになつたばつてん、却つて短期間で、あつさり逆けて、良かったばいね」などと私達は話しおつた。

初七日も過ぎたある日、「死なす前に何て教えなつた」と母に聞いてみた。いつも母は思ひ出話ばさす時に、斜め上ば見ながら話さす癖のあつた。そんな時も細めた目で唇のあたりば見ながら、ちよつと間ば置いて、語り始めらした。「癌てな知らせんたつたばつてん、分かつたらしたごたるよ。だんだん悪くなるしな」。

あと2、3日しかもたんな、話すなら

今はい、と思つたけん『あのな父ちゃん、暗か道は通るらしかよ、真つ暗な道たい。そこに地藏さんがおつてな、案内してやらすてたい。だけん見失わんこつ、後ろにしかり付いて行かんたいかんよ。迷わんようになつて言いたい。そんな時は天井ば見つめて、うんも言わつさんだつたもんな。』母はその時の気迫は、思ひ出さしたつたろつ、「はー」て溜息ばひとつ、つか

ばつてん、あくる日の晩に『ありやあ、誰に付いて行くどつたつたかいな、暗か道は行く時の話したつたかいな、思つて、耳元で大きか声で『地藏さん地藏さんばい。迷わんごつ、ちやんと付いて行きなつせよ』て言つたたい。ほんなこつ間に合つて良かったばい。三途の川ば渡る船に乗らしたたい、きつとな。安心したけんだらうたい、私は、夢も見らんとよ」

「母ちゃんば凄かな、世界一たい」て言つて私は、丸うなつた母の背中に抱きつた。夫の今際の時に、究極の引導ば渡さした母は、みことばい、と思つた。私にまねがでくるとか。でけんだらうな。

田中(旧姓西本)久美子(昭43年卒)

私のグルメレポート！ - Vol.3

- 東京で味わえるふるさとの味 -

「しん」(SHIN)

まずご紹介したいのは、恵比寿にある熊本郷土料理のお店「しん」です。熊本出身のご主人がやっているだけに、馬肉のグレードの高さは評判通り。地元以上かも？と思える味です。馬刺しは、たてがみ、フタエゴと珍しい部位も揃っていて、どれもとても新鮮で美味しいです。(お醤油は、もちろん熊本の甘めの醤油です)

それ以外にも馬モツの煮込み、ヒモ酢モツも柔らかくて試す価値大です。

辛子レンコン、ひともじぐるぐる等の熊本が誇るメニュー達の中から、大好きな太平燕を見つけさっそく注文。懐かしい味です。トッピングのゆで卵はちゃんと揚げたゆで卵でした(ここが肝心、王道ですね)

もう熊本に帰ったような気分です。私は食べ損ねてしまいましたが、馬肉バーガーなるものもあります。是非味わってみてはいかがでしょうか？

渋谷区恵比寿南1-16-5 タチムラビルサウスB1F
電話03-6663-8731



「魚魚魚」(とつとつ)

座ろうと思つている席に「この席空いてますか？」聞かれた場合、九州人ならきつとこう答えますよね。「とつとつ！」神田駅南口近くにあるこのお店の名前は「魚魚魚(とつとつと)」といいます。博多出身の大將が作るのはどれも安くて美味しい九州料理。もちろん熊本の食材、料理も豊富です。

大分のサバ、宮崎の子キン南蛮、鹿児島のみきびなご等々。これらと相性抜群の九州各地の焼酎や日本酒。ここは、まさに“九州パラダイス”です。店内はやや狭めですが、お友達同士でわいわい盛り上がるには最適のお店だと思います。ランチタイムも営業しているみたいです。

千代田区鍛冶町2-1-13 大業ビルB1F
電話03-3253-2090 塚原 直美(昭52年卒)



熊本弁講座 - 「う」編 -

KUMAMOTO

創刊号からシリーズ化した熊本弁講座ですが、今回は「う」編です。どうぞ声に出して、熊本弁を懐かしんでください。

- ①「うしてる」(捨てる/放り出す)
「こんパンな、くさとった。うしてなっせ」
(このパンは、腐っています。捨ててください)
- ②「うっちょく」(置く/取り残す/放っておく)
「時間厳守ばい。遅れたらうっちょくけんね」
(時間厳守です。遅れたら置いて行くからね)
- ③「うんぶくれる」(溺れる/うずもれる)
「うちん子が、池でうんぶくれとる。助けくれ！」
(うちの子が、池で溺れています。助けてください！)
- ④「うわいさあし」(うわあ/あらあら)
「うあいさあし、今日は、道路が混んどるばい」
(うわあ、今日は、道路が混んでいるね)
- ⑤「うんべた」(海辺)
「おどんぎゃいえは、うんべただけん、眺めはよかばい」
(我が家は、海辺なので、眺めはいいよ)

感動体験をしました！

- 第8回志村彩友会展 -

5月26日、私は第8回志村彩友会展で感動体験をしました。同展は、宇土高先輩の慶野さん(昭41年卒)所属の「志村彩友会」が年一回開催している絵画の展示会で、以前から慶野さんの作品に大変興味があり、仕事の帰りに立ち寄りしました。会場の成増アートギャラリーに足を踏み入れた瞬間、静寂な雰囲気の中に見事なまでに完成された沢山の作品が展示されており、思わず圧倒されました。慶野さんが親切に会場内を案内してくださり、ご本人の素晴らしい作品にも触れ十分に堪能しました。

慶野さんは高校時代、書道部に所属していましたが、絵との出会いは、娘さんの小学校の送り迎えの際、その小学校と同じ敷地内にあった公民館で絵の教室に入会したのがきっかけで、それ以来、約20年に亘り、水彩画、油絵に勤しみ、ご本人の作品数は約100点になるそうです。月8回の教室では、主に人物が被写体ですが、時折、気分転換に屋外でのスケッチも楽しんでいらっしゃいます。ご本人が水彩画を始め一年目に描いた「靴」の絵が神奈川県某展覧会で入賞作品となり、仲間内では、“靴の絵の慶野さん”で一躍有名になったそうです。

慶野さんが通う教室は、男女比4:6で様々な経歴の方々が集っています。中には一流企業の元社長もいらっしゃいますが、教室の中では、肩書は一切関係なく、和やかな雰囲気の中で皆さんは絵画を嗜んでいるそうです。絵の先生を囲んでの忘年会、花見会、絵画展後の打ち上げ会もあり、楽しい時間を満喫していらっしゃいます。

今回は、是非、慶野さんの“個展”を堪能したいと思っています。

坂崎 守寿(昭55年卒)



お知らせとお願い

『東京鶴城会便り』および広告の原稿を随時募集します。

『東京鶴城会便り』の原稿を随時募集しています。内容は同期会、旅行記、家族、ふるさと自慢、随筆、俳句・川柳など、なんでも結構です。お礼はできませんが気軽にメール、手紙などで下記までお送りください。

また、資金不足のため、1件5千円で広告をお願いいたします。会員の皆様のご協力をお願いします。

編集部 〒338-0811 さいたま市桜区白鍬135-13 坂崎 守寿
 Email mori.reds-041205@jcom.home.ne.jp
 事務局 〒300-1636 茨城県利根町羽根野850-59 河野 毅
 Email kohno@msd.biglobe.ne.jp

「チター」の音色に癒されました。

ふと誘われるままに聴いたチターの音色が忘れられず、次回演奏予定を事務所に聞いたところ奏者直々の手紙で白岡のコミュニティーセンターで開演を知った。ちょうど泊りに来た孫娘を家内に誘わせ連れ立って行くことに成功した。

遠く離れた欧州の街ウィーンで育てられていたという小脇に抱えられるほどの小さな楽器の素晴らしい音色をどうしても妻と孫娘に聴かせたいと思っていた。

素朴な木綿、紺色の民族衣装を纏った奏者の雰囲気にも魅せられて聴いた前回の演奏を思い浮かべていた。

やや肩の張ったダークブルーのロングドレスは低く垂れた雲が森を覆い煙った空に。そんな風景に似合った金色の弦が響く。

チターを小脇からそっと合に置いて、ウィーンで育った楽器の由来をゆっくりと語り、そしてピオラからチター奏者に替った若き日のウィーンでの修行のいきさつ等を語りながら演奏が進行した。「姫リンゴの花」「レントラー舞曲」「我が夢の街ウィーン」「第三の男」曲等、曲ごとに丁寧な解説を加えた上に多彩な響きを放つ弦をつま弾く。耳にしたことのある「第三の男」もかっこいいと思ったが解説の中味は初めて聞くものだった。

曲にまつわる話も知らず迂闊に過ぎた青い時代を振り返り思い返し聞き入っているうちに弦の響きがなぜか物悲しく響いて胸を打った。後半は「乙女の祈り」「さくら」「故郷を離るる歌」「おぼろ月夜」等日本の曲もまじえながら。そして会場はだんだん合唱になり、澄んだ歌声が、「さらば故郷さらば故郷さらばふるさと・・・」と歌い、なぜか私が涙にくれるうちに終演となった。福島原発や津波で追われた東北の人々の身の上と、半世紀以上も前の事なのに、敗戦で棄民となった人々への想いが重なって蘇ったろうか。

木の葉がちぎれそうな強い風が吹く帰りの出口は地元のファンに囲まれたなごやかな奏者の顔があった。

安富 一雄(昭25年卒)



< 編集後記 >

3月11日に発生した東日本大震災は甚大な被害をもたらしました。自然災害の前に人間の無力さを痛感させられました。連日のテレビ、新聞報道に釘付けとなり、被災地の映像が流れる度に「夢であってほしい・・・」と何度も思い、胸が痛みました。

宮城県に住む私の伯母家族は、大震災直後から10日間以上も車の中で過ごしたそうです。「がんばろう！東日本」と題した支援活動が日本全国、そして世界各地で行われています。被災地の皆様には心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興をただ祈るばかりです。

坂崎 守寿(昭55年卒)